

施策番号	115	施策名	障害者(児)福祉の推進	令和3年度主管課名	保健福祉課
総合計画体系	政策名	1	こころあたたかい福祉の里づくり	令和3年度課長名	安道 智秋
	関係課名	学校教育課		シート作成者	渡邊 英紀

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	1年度	2年度	3年度	4年度	7年度
ア	身体等に障害を持った町民	→	ア	人	見込値 実績値	563	538	540 515	540	550
						イ	療育手帳保持者数	人	見込値 実績値	125
ウ		→	ウ		見込値 実績値					
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	1年度	2年度	3年度	4年度	7年度
ア	精神的、身体的、経済的に自立してもらう	→	ア	%	目標値 実績値 達成率	0.6	0.5	0.6 0.5	0.6	0.5
						経済的に自立できない障害者の割合	0.7	0.6	0.5	111.5%
イ	積極的に社会参加をしてもらう	→	イ	%	目標値 実績値 達成率	25.5	25.0	23.2 23.1	22.9	22.0
						自力で外出ができない障害者の割合	108.1%	104.6%	100.4%	99.1%
ウ	自力で家庭生活ができない障害者の割合	→	ウ	%	目標値 実績値 達成率	27.0	25.0	30.8 29.3	30.6	30.0
						自力で家庭生活ができない障害者の割合	86.3%	92.9%	105.1%	104.4%
エ	特別支援学級在籍児童生徒受入数	→	エ	人	目標値 実績値 達成率	33	33	56 63	64	68
						特別支援学級在籍児童生徒受入数	160.6%	169.7%	112.5%	98.4%
⑤ 成果指標設定の考え方	身体等に障害をもった町民が精神的、身体的、経済的に自立して、積極的に社会参加してもらうことを目的としているので、それらのことが困難な障害者の人数を指標とした。			⑥ 成果指標の把握方法と算定式等	(障害者)実態調査による ア、生保人数/町人口 イ、要介護4・5/介護認定者数 ウ、施設入所者数(GH、軽費、有料、特養、老健施設)/介護認定者数 エ、支援学級児童数					

2. 施策の役割分担

施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
	<ul style="list-style-type: none"> 町民は、障害を正しく理解し、日常生活や災害発生時に協力する。 障害者は、自身の自立生活のために社会参加を行うとともに、福祉サービスを利用する場合には、適切な利用に努める。 事業所は、障害者の特性を理解し、就労機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政は、障害の早期発見、適切な療育、教育環境の整備、支援サービスなどの確保に努める。 障害の有無にかかわらず、互いに尊重し合う意識を持てるよう、障害に関する理解や知識の普及を図る。

3. 評価結果

3年度 の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因	
	① 施策の目標達成度 (目標値を達成したか、未達成か? その要因は?)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を上回る <input type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値を下回る
② 成果指標の時系列比較 (成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)	<input type="checkbox"/> 向上した <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input type="checkbox"/> 低下した	
③ 他団体との比較 (近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準	
2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など		
町民アンケートに「身体的に障害・持病を持った人の就労の場を増やしてほしい」との意見があり、障害を持った方の特性を理解したうえで、一般就労や障害雇用のマッチングの支援を行っていく。また、町内にも障害のある人を受け入れる施設があり、問い合わせがあれば、臨機応変に対応していく。あわせて、障害者福祉の推進に努めていく。		
3. 施策の振り返りと総括 (3年度の事務事業や取組の成果は? うまくいかなかった取組・問題点と原因は?)		
① 施策の成果向上につながった主な事務事業	自立支援就労継続支援給付費	
② 施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業	障害者福祉用具貸与事業	
③ 施策全体の振り返りと総括		
<ul style="list-style-type: none"> 障害の有無にかかわらず手話を使って安心して暮らせることができる共生社会の町を目指し、「鏡野町手話言語条例」を制定した。 ひきこもり支援を推進するため、障害福祉相談支援員を配置した。 津山地域の相談支援センターや基幹相談支援センターとの連携や、身体障害者福祉協会の支援を行った。 障害者虐待を解消するため、ケース会議、コア会議、支援者会議を開催した。 障害者総合支援法に基づく、障害者福祉サービスの詳細情報を提供するため「障害者福祉ハンドブック」を更新した。 		
4. 施策の今後の課題と改革改善の方向 (今後、新たに取り組むべきこと、さらに力をいれる必要があることは?)		
① 今後施策の成果向上につなげる主な事務事業	成年後見制度利用促進事業	
② 施策全体の今後の課題と改革改善の方向		
<ul style="list-style-type: none"> 発達障害者の就学や進学など、トータルライフ支援を進め、環境の変化に迅速に対応していく。 地域生活支援拠点の整備を、津山圏域での推進を図り、町内の障害福祉施設の整備についても対応していく。 障害者虐待を解消するため、ケース会議、コア会議、支援者会議を開催していく。 障害福祉相談支援員を配置し、障害者(児)また障害の疑いのある者本人や、家族等支援を行うことにより、ひきこもり状態にある者の社会参加を促進する。 		